

## 検討会議（第1回）で出された意見

### 現行制度の利点に関する意見

- ・ 高校受験を通した子どもたちの発達や成長にとって、2校志願できることによる安心感は大切である。（中学校長）
- ・ 長年続いてきた安定度の高い制度である。（中学校教諭）
- ・ 推薦選抜を一般選抜の日程に取り込んだことで、中学校の学習環境に落ち着きが出てきた。（中学校長）
- ・ デメリットもあるが、受検生にとってはメリットの方が大きい。（高等学校長）

### 現行制度の課題に関する意見

- ・ 一般選抜の中で同じような学力検査を2回行っているのは、合理的とは言えない。（学識経験者）
- ・ 推薦選抜と一般選抜が一体化したことで、学力に偏らず、生徒の多様な個性を評価する仕組みとしての推薦選抜の機能が弱まった。（中学校長）
- ・ 推薦選抜と一般選抜が一体化したことで、受検生にとって制度がわかりにくく、推薦選抜に出願しにくいものとなった。（高等学校長）
- ・ 推薦選抜を一般選抜の日程に取り込んだことで、高等学校における3月の授業等が圧迫され、高校生の学びに影響が出ている。（高等学校教諭）
- ・ 推薦選抜の合格者発表が遅くなったことは、受検生や保護者にとって非常に大きなマイナスとなっている。（高等学校長）
- ・ 文章記述型の設問が増加したことにより、大量（800～900人分）の答案を短時間でミスなく採点することが高等学校の大きな負担となっている。（高等学校教諭）
- ・ 2校志願できることは、学力上位層や交通の便利のよい地域に居住している生徒を除くと、必ずしも魅力的な制度ではない。（高等学校教諭）
- ・ この30年間で高等学校の「輪切り」が進んで学校間格差が広がり、遠距離通学者が増えた。（高等学校教諭）

### 今後の議論の方向性に関する意見

#### ◇ 全体的な視点から

- ・ 集団生活の中で社会性を発達させると同時に個を伸ばしていく全日制高校の機能は大切にしていけるべきであり、入学者選抜制度を含めた全日制高校の魅力を向上させる必要がある。（高等学校長）

- ・ どのような入試制度が望ましいのかという基本的な部分で中学校と高等学校が共通の基盤に立たなければ、具体的・技術的な議論をしても、すれ違ってしまう。（学識経験者）

- ・ 改善を求める意見だけでなく、現行制度を支持する意見も踏まえて議論できるとよい。（中学校教諭）
- ・ 特色ある学校づくりを行う中で求められるものは多様であり、入学者選抜における基準も多様であるべきである。（中学校長）

#### ◇ 一般選抜における2校受検の在り方について

- ・ 技術的に可能であれば、大学入試のように1回の学力検査の成績を用いて第1志望、第2志望の可否判定を行うとよい。（学識経験者）
- ・ 競争を緩和するために、1校志願とするべきである。（高等学校教諭）

#### ◇ 普通科における学区、群及びグループ分けの在り方について

- ・ 多くの生徒が地域の高等学校へ進学し、地域に根ざした学校づくりを進めるために、学区を縮小するべきである。（高等学校教諭）

#### ◇ 推薦選抜の在り方について

- ・ 現行制度となつてからの推薦選抜志願者の減少は、多様な選抜尺度で評価してほしいという受検生の潜在的なニーズが高いことを示している。（学識経験者）
- ・ 多様な能力を測るという推薦選抜のメッセージ性が、推薦選抜と一般選抜を一体化したことによって受検生にどのように見えているのかを検証し、改善につなげるべきである。（高等学校長）
- ・ 推薦選抜は一般選抜の日程から切り離して早期に実施するとともに、全校実施を改め、各高等学校の判断で実施できるようにするべきである。（高等学校教諭）
- ・ ニーズの多様化に対応したより魅力的な制度とするため、自己推薦型の特色選抜を導入することも考えるべきである。（高等学校長）
- ・ 一般選抜の学力検査と一緒に行うかどうかは別として、推薦選抜の志願者にも学力検査を課すほうがよい。（学識経験者）

#### ◇ 入試日程の在り方について

- ・ 中学校の卒業式の日程を工夫すれば、合格者発表までの日程全体がスムーズになる。（学識経験者）
- ・ 合格者発表を早めれば、生徒の入学準備だけでなく、高等学校の第2次選抜の日程にも余裕が生まれる。（高等学校教諭）